

教研式 NRT 学力検査の結果のお知らせ

表 1

平成26年度 佐渡市中学校NRTの結果

教科 学年	国語	社会	数学	理科	英語
1年	51.1	50.9	48.8	51.2	49.4
2年	52.0	50.2	47.8	50.1	49.3
3年	51.7	50.7	48.8	50.4	49.0
全体	51.6	50.6	48.4	50.6	49.2

「平成 26 年度 教研式NRT 学力検査」の結果がまとまりました。ご覧いただくとともに、各学校においては、今後の指導に役立てていただきたいです。

表 1 は、平成 26 年度の中学校の結果です。数字は、平均偏差値で(表 2 も同様)、各学年および教科ごとに算出されています。(中学校は 5 教科、小学校では 2 教科で実施)「全体」は、全学年を一緒にし、教科でまとめた偏差値となります。

佐渡市では、中学校におけるNRTの目標平均偏差値を各教科とも 50 以上と設定しておりました。

(表 3 参照)この基準に照らしてみると、国語・社会・理科では目標をクリアしております。一方、数学・英語は各学年とも 50 には届きませんでした。

詳しく見てみますと、数学の中で正答率がよくなかった分野は、各学年とも「資料の活用」でした。これは、この領域の学習が 3 学期に集中し、学習が完了していない学校が多かったことが原因として推測できます。次に正答率がよくなかったのは「数と式」でした。とくに、2 年生で正答率が低く結果が出てきました。これは、新潟県が行う Web 配信集計システムでも明らかになった課題、「佐渡市では『正負の数』『文字式』『方程式』が弱い」という課題と符合するものです。各学校においては、自校の「数と式」領域の実態がどのようになっているか、全校体制で分析を進め、次年度の改善策を明らかにしていただきたいです。

また英語では、各学年とも「書くこと」の正答率が他に比べて低くなっていました。これも Web 問題でも同様の傾向がありました。Web 配信問題では毎月記述式の問題が出てきますが、これにしっかり答えられる力を付けていく必要があります。

表 2

平成26年度 佐渡市小学校NRTの結果

教科 学年	国語	算数	教科 学年	国語	算数
1年	54.9	55.1	4年	53.2	53.9
2年	54.6	55.1	5年	53.5	55.6
3年	55.8	55.8	6年	54.5	54.9
			全体	54.4	55.1

表 3

平成26年度 目標平均偏差値の達成状況

中学校の結果

教科	目標値を達成	割合
国語	12校	92.3%
社会	11校	84.6%
数学	6校	46.2%
理科	9校	69.2%
英語	7校	53.8%

小学校の結果

教科	目標値を達成	割合
国語	18校	81.8%
算数	21校	95.5%

※平成26年度佐渡市目標平均偏差値
■小学校 → 各教科とも
平均偏差値 53以上
■中学校 → 各教科とも
平均偏差値 50以上

表 2 は、平成 26 年度の小学校の結果です。小学校における目標偏差値は、国・算ともに 53 以上でしたので、すべての学年で達成したことになります。学校ごとに見ても(表 3 参照)国語で 81.8%、算数で 95.5%の学校で平均偏差値 53 以上を達成しており、満足できる結果です。各学校の学力向上の取組が結果に表れたものと受け止めております。

表 4

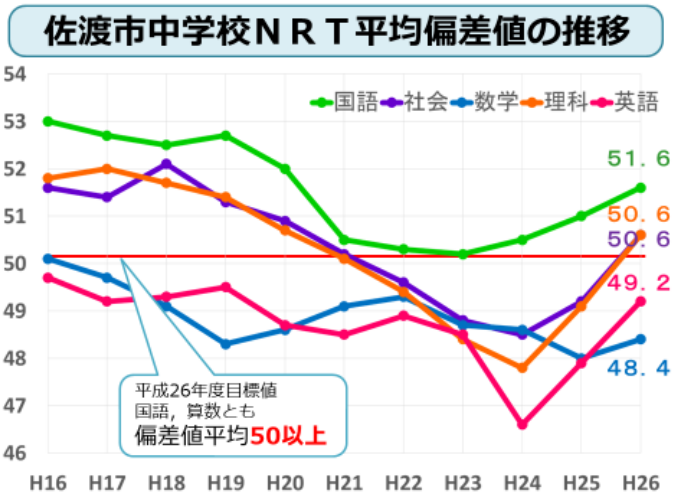


表 4 は、佐渡市中学校の教科別NRT平均偏差値の推移です。昨年度（平成 25 年度）は、これまでの低下傾向に歯止めがかかり、数学を除いた 4 教科で若干持ち直しの傾向が見られました。今年度はこの傾向がさらに継続し、社会・理科・英語では前年に比べて明らかな改善傾向が、国語・数学でも若干の改善傾向が見られました。各中学校で行われてきた学力向上の取組の成果と受け止めております。

表 5

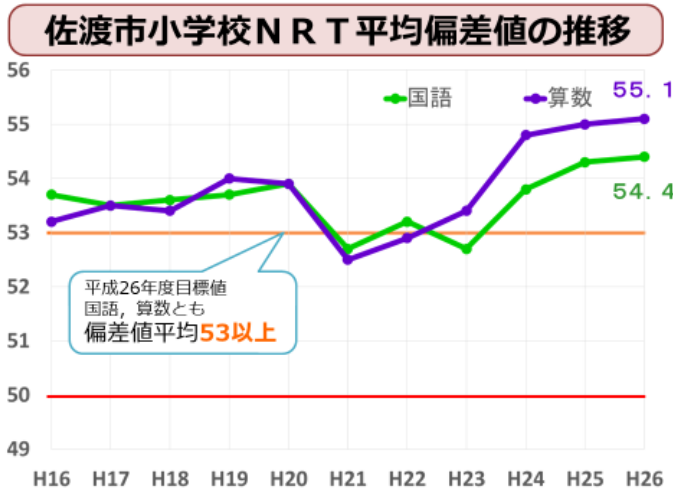


表 5 は、佐渡市小学校の教科別NRT平均偏差値の推移です。佐渡市として検査を開始した平成 16 年から比較して過去最高だった昨年度（平成 25 年度）を国語・算数ともに、さらにわずかに上回る結果となっています。

表 6 は、学力偏差値と知能偏差値とを比較して期待される力を身につけている児童生徒がどのくらいいるかを表した数値です。

アンダーアチーバーの割合を見てみると、まだ力を付ける余地がある生徒が、数学・英語を中心に多くいることが分かります。NRT学力検査をはじめ、各種調査を有効に利用して一人一人の学習状況を確実に把握して、個に応じた指導をより充実させる必要があります。

また、つまずきが見られた学年・学級においては、子どもがどのように考え、どのようにつまずいたのかその実態をつぶさに分析して、日々の授業改善を図る必要があります。さらには、中学校区で連携を図り、中学校で着実に力を付けるために小学校段階で何が課題なのか、小学校でどこまで指導しているのかを明確にして改善を図ることが大切です。

表 6

学力偏差値と知能偏差値との関連

中学校				小学校			
教科	O.A.	B.A.	U.A.	教科	O.A.	B.A.	U.A.
国語	11.2	70.8	18.0	国語	24.1	65.2	10.7
社会	13.5	59.3	27.2	算数	31.0	57.6	11.4
数学	7.9	58.7	33.4				
理科	15.7	57.4	26.9				
英語	9.8	58.9	31.3				

※ 数値はそれぞれの人数の割合(%)

※用語について
学力偏差値と知能偏差値を比較し、知能検査の結果に比して学業成績がよい子どもを「オーバーアチーバー(O.A.)」といい、その逆を「アンダーアチーバー(U.A.)」という。均衡している場合は「バランスアチーバー(B.A.)」という。

今後とも、佐渡市児童生徒の学力向上のために、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

平成26年度 教研式NRT検査基礎データ

中学校 (13校)	小学校 (24校)
<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年1月実施 ■国語、社会、数学、理科、英語の5教科 ■検査対象 □第1学年 405名 □第2学年 431名 □第3学年 416名 □合計 1252名 	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年1~2月実施 ■国語、算数の2教科 ■検査対象 □第1学年 400名 □第2学年 422名 □第3学年 374名 □第4学年 385名 □第5学年 405名 □第6学年 419名 □合計 2405名

さらに広がる・深まる「佐渡市のキャリア教育」

平成26年度、佐渡市ではキャリア教育の充実のために小学校6校を対象に出前授業「私のみらいづくりワーク」を実施しました。次年度は今年度の成果を生かし、この取組をさらに広げていく予定です。

